

デジタル田園都市国家構想実現に向けた当面の重点検討課題について

令和5年6月2日
広島県知事 湯崎 英彦

- デジタルの力を活用した地方創生の実現に向けて、成功事例の横展開がなじむ課題については、デジタルの力を早く取り込んでいくとともに、成功体験を積み重ねるといった観点から、徹底的な横展開が重要であることはこれまでの会議で述べさせていただいたところ。
- 今回、重点検討課題として、「優良事例を支えるサービス／システムの横展開の加速化」が掲げられており、今後、関係府省庁が連携して、取組の性格を整理した上で、具体的な支援策が策定・実施されることとされている。
優良事例をただ共有するだけでなく、横展開の取組が各地域で確実に実装されるような取組を期待している。
- その中で、横展開を徹底的に進めていくには、実際にどの程度各地域で横展開されたのかフォローアップをしていくことが重要である。
例えば、優良事例として横展開すべきとされた事業がどのくらいあるのか、その事業がどの程度地方で実装されたのか、また、デジタル田園都市国家構想交付金の活用により横展開されたものがどの程度あるのかなど、地方での横展開の進捗状況を分析し、地方が必要な取組を積極的かつ円滑に取り入れられるようフォローアップをすることで、横展開の徹底を進めてもらいたい。
- また、我が国全体及び特に地方におけるデジタル人材の蓄積が現時点で不十分であるが、これは、米国などデジタル先進国と比べ、社会全体で絶対的なデジタル投資が不足していることが大きな原因の一つと考えられる。
- DXは科学ではなく、机上で学ぶだけでは不十分で、失敗と成功を繰り返しながら実践の中で能力が培われるものである。従って、具体的なプロジェクトを通じ、デジタルテクノロジーの供給側・需要側双方における実践的な人材育成を加速する必要がある。
- このため、特に地方におけるDX投資の拡大と人材の定着が必要である。その際、学習曲線を十分に上るまでは、失敗を許容することも必要なプロセスであり、投資効果も出にくいことから、プロジェクトそのものの成果に必要以上にこだわることなく思い切った投資拡大を行い、学習曲線の駆け上がりを加速するよう取り組むべきである。
- このような観点から、デジタル田園都市国家構想交付金については、十分な所要額を確実に確保するとともに、先進的なサービスの開発・実装を目指す事業や、複数年度にまたがって段階的に実施する事業などにも活用できるよう、交付対象の拡充を行うべきである。
- デジタル田園都市国家構想の実現に向けては、国と地方が意見交換しながら、地方自らが、各地域の実情に応じた取組を進められることが重要である。今後のフォローアップ、総合戦略の改定においても、引き続き、地方でのデジタルの取組が加速・持続する仕組みづくりや地方のデジタル人材の育成につながる具体的な支援を進めていただきたい。